

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：情報科学

部会長名：塚本康夫

作成者名：塚本康夫，熊本悦子

概要（2000 字）

1. 教育用端末負荷対策について

平成 20 年 4 月に教育用端末の過負荷問題が発生した。学術情報基盤センターから、新入生の情報基礎と履修登録が重なったときが問題となるとの調査結果が出されており、学術情報基盤センターからの協力要請に従い、平成 21 年度 4 月の履修登録時における情報基礎実施の際には、一斉にログインやログアウト、Web 教材へのアクセスを行わない等の指導を行った。今年度は端末の負荷について特に問題は発生していない。

2. 情報基礎の実施について

2-1) 次年度の実施に向けて主な担当者間で事前の打ち合わせを行った。(平成 21 年 2 月 9 日)

情報基礎の第 1 回目にアカウント配布，5 回目の全時間を図書館に担当して頂くこと等，前年度とほぼ同様の内容で実施することになった。

2-2) 図書館との打ち合わせを行い，次年度に向けて以下の確認を行った（平成 21 年 2 月 26 日）

- ・情報基礎第 5 回目の内容を前年度と同様に図書館で企画，担当する。
- ・クラスの所属する学部の図書館職員が講義を担当し，学生と学部図書館との親密度を高める
- ・図書館で DVD「情報の達人」を購入し，一部（レポート作成手順）を講義で使用する
- ・図書館が担当したクラスのいくつかの採点を行い，講義方法，内容にフィードバックする

3. 教養原論担当者の確保について

前年度の森下部会長および関係各位の尽力により，平成 22 年度より 4 コマの教養原論「情報の世界」を全て工学部教員が担当することになった。

4. D618 演習室の K 棟への移転

耐震補強工事に伴う教室移転により D618 教室が K 棟に移転し，平成 21 年度後半より使用が開始された。それに伴い，旧 K501 および K502 は統合されて新 K501 となり，旧 503 は新 K502 に名称変更された。端末の台数は教員用を含めてそれぞれ 151 台（K501）および 192 台（K502）である。従来 170 台規模の構成とは異なるため，今後，どのような利用状況になるか不明な点もあり，情報科学教育部会としては柔軟に対応して行きたいと考えている。

5. 情報科学教育部会の外部評価について

平成 22 年 3 月 11 日（木）に情報科学教育部会外部評価委員会を開催し，関西大学総合情報学部（副学長）上島紳一教授および大阪商業大学総合経営学部樽磨和幸教授に

よる外部評価を受けた。詳細は報告書に記載。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎は全学の学部新生を対象とし、情報機器の操作にとどまらず、セキュリティや情報倫理までを網羅した必修の情報リテラシー教育である。再履修クラス 1 クラスを含め全 24 クラス、開講期間は半期の半分(6 単元)であり、教育用端末を用いて行う。授業は、オリジナルの Web テキストと独自に開発した簡易 e-Learning システムを用いて、全クラス同じ内容で行われる。情報科学は学部からの要請に基づき開講されており、常に最新の情報を講義に反映するように努めている。また、教養原論「情報の世界」については、専門領域外の学生に広く知識を提供することを目標に講義内容を構築している。

根拠資料

情報基礎: Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/>)

教養原論「情報の世界」: 参考資料(<http://www25.cs.kobe-u.ac.jp/~info/>)

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては、20 年度までの反省点を踏まえ、講義内容の見直しを行い、Web テキストの内容を修正した。情報科学については、日々進展している領域であるため、複数の参考書や最新のトピックを取り上げ、SPI 試験等にも対応できる講義を行った。

根拠資料

情報基礎: Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/>)

情報科学: パワーポイント資料, 記入式配付資料

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては Web テキストを準備することにより、学生が学内外からアクセスし、自学自習を可能とした。また、クラス担当スタッフへのメーリングリストを作成し、電子メールによる質問を可能とした。情報科学については、教室での講義であるため実習は不可能であったが、持ち込みのノート PC を用いて例示可能な内容は教卓で実践して例示した。また、毎回の配付資料は記入式のものとし、受動的な講義にならないようにした。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/>)

情報科学: パワーポイント資料, 記入式配付資料

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）

情報基礎については各クラスの履修者数に応じて、教員 2 名または 3 名およびティーチングアシスタント 2 名または 3 名で授業を担当、1 人 1 台のコンピュータを割り当てた。授業手順書を準備し、教員が異なってもすべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにした。情報科学に関しては、スライドやアニメーション等の情報機器を活用した。

根拠資料

各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席表

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/>)、授業手順書

情報科学：パワーポイント資料、記入式配付資料

5-2-③： 自主学习への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

情報基礎のテキストは全てオンラインで閲覧できるホームページであり、随時、繰り返し閲覧できる。また、オンラインで授業の単元毎に、力試しテストを設け、随時、繰り返しテストを受ける事が出来る。その記録は各学生が自分の分を閲覧でき、担当教員は担当する全ての学生の状況を確認できるため、適切な指導を行なう事が出来る。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/>)

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

情報基礎については成績評価基準を全クラスで統一し、出席、課題の採点結果に基づいて公平に採点した。情報科学については、シラバスの通り配付資料の内容を基にした演習問題、レポート課題を複数回実施し、それぞれ授業の後半で解説、回答例を配布した。

根拠資料

情報基礎：課題の解答メール、オンライン小テストの履修者の解答。

情報基礎：成績集計システム (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2009/> 教員用ページ)

情報科学：答案、授業内レポート

基準 6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

情報基礎独自のオンラインアンケートを行った結果、Web テキストは授業を理解する上

で役に立ったという設問に対し、5段階で平均 4.10 であり、高い評価を受けた。ビデオ教材が授業内容を理解する上で役に立ったという回答も、5段階平均 4.07 と高く、教育の効果が上がっていると考えられる。また、e-Learning システムで個々の出席状況やテストの成績を確認できることが好評であった（5段階で 4.47）。情報科学に関する 1 例として後期末曜 3 限のクラスについて、学生授業評価の総合判定の平均が 3.9 であった。

根拠資料

平成 21 年度オンラインによる授業評価アンケート結果（情報基礎オンラインアンケート）

基準 7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

情報基礎に関して，クラス毎にメーリングリスト（基盤センターサービス）を設置して，学生から電子メールで担当教員とティーチングアシスタントに対して随時，質問が受け付けられるようになっている。

根拠資料

神戸大学統合ユーザ管理システム課金サービス一覧